My Road Map 2020

龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科
初年次学修ガイドブック

大学は自由。でも、「厳しさ」と背中合わせだ。

龍谷大学へようこそ。コミュニティマネジメント学科へようこそ。

本学科は 21 世紀になってから設置された新しい学科です。新しいだけに、伝統的な学部・学科とはちょっと異なる考え方や仕組みで運営されています。新入生の皆さんに、どのような姿勢で大学生活をスタートしてもらいたいか。学科主任に話を聞きました。

──大学って、高校までと違って、「これを勉強しなさい」とはあまり言ってくれませんよね。先生は、大学と高校の学習をどう違っていると考えていますか？

主任　大学ではものすごい数の授業が開講されていますよね。学生はその中から、自分に必要な科目を選んで履修するわけです。高校までなら時間割は学校が決めてくれたけれど、大学では自分で時間割を決めなければならない。「教わる」から「学ぶ」に変わるんですね。

──とにかく、圧倒的に「自由」。

主任　そう。自由ですね。だから、学生はなによりも「主体性」を求められる。自由という言葉は耳当たりがいいけれど、実は厳しさをはらんでいるんです。自分は何を学びたいのか、できるだけ早く明確にして、責任を持って自分のカリキュラムを考えなければならないわけです。

──学生の立場に立ってみれば、真っ白なキャンバスを与えられて、いきなり「何か描け」と命ぜられているようなもんですよね。

主任　大変でしょうね。とくにコミュニティマネジメント学科の場合、履修できる科目が本当に幅広い。いずれも、「地域を元気にできる人材」に育つためには必要な科目ではあるけれども、何らかの指針がなければ体系立てて学ぶことは難しいかもしれません。

そこでコミュニティマネジメント学科では、数多くの専攻科目を大きく 3 つの「系」にくくっています。履修要項とこの「マイロードマップ」を参考に、それぞれの系から履修する科目を縦横に選んでいって欲しいわけです。

──ところで、先輩たちは大学の外で「コミュニティマネジメント学科って何を勉強してるの？」と聞かれたときに、どうもうまく答えられないという経験をしてるみたいですね。

主任　そういう話をよく聞きます。学生諸君は否応なく、自分のアタマで考えざるを得ないようですね。それは辛いことかもしれませんが、学部名や学科名に寄りかかって分かったようなつもりになっているより、諸君にとってはずっと値打ちのあることでしょう。分かりにくいことに価値があるんです。4 年後の卒業研究に向けて、「コミュニティマネジメント」って何なのか、粘り強く考え続けていって欲しいと願っています。

My Road Map 2020

目次

第１部　CM 学科とは何か 1
　１．学科の目的 1
　２．学科の学びの特徴 2
　３．実習こそ CM 学科 2
　４．先輩たちはこう学んだ 3
第２部　４年間の学生生活を組み立てる 5
第３部　大学生らしい学び方入門 7
　１．講義受講の常識とマナー 7
　２．ゼミとはどういうものか 8
　　（１）ゼミの基本ルール 8
　　（２）入門ゼミナール（1 回生）の到達目標 9
　　（３）調査・まとめ・発表の技法 9
　　（４）レポートの書き方 11
　３．実習の心得 13
　　（１）実習の現場を見つけ、決定するには 13
　　（２）実習の心得とマナー 13
第４部　大学を徹底活用せよ 14
　１．ラーニングコモンズ 14
　　（１）スチューデントコモンズ 14
　　（２）グローバルコモンズ 14
　　（３）ナレッジコモンズ 14
　２．図書館 14
　３．ライティングセンター 15
　４．情報メディアセンター 15
　５．学びのサポーター 16
第５部　学生は本を読むのが仕事 19
〔付録〕2019 年度コミュニティマネジメント学科卒業研究題目一覧 27

第１部　CM 学科とは何か

１．学科の目的

人が生き生きと暮らせる地域社会をめざし、
住む人の視点に立った提案ができるコミュニティリーダーを育成する。

これが、本学科の設立の目的です。

この目的を遠近法風にいえば、「人が生き生きと暮らせる地域社会」の創造、これが大きな目的（ミッション）であり、そのミッションに向かって、「住む人の視点に立った提案ができるコミュニティリーダーの育成」が、目前の目標（ゴール）となります。コミュニティリーダーとなることを期待されているのは、もちろん、皆さんです。

ですから、本学科の目的を示すキーワードは、地域社会と人となります。地域社会とは、地域という空間における人びとの共同の活動の総体といえます。地域社会には、家族を核とする近隣関係のような基本的な社会関係があります。また、生産、教育、政治、娯楽などの機能にもとづく社会関係もあります。地域社会は、人びとの生活と密接に関わり、人びとのこころ（精神）、身体（生命・健康）、社会（暮らし向き）に大きな影響を与えてきました。

ところが、現在、人びとの生活を支える地域社会の力は弱まり、さまざまな社会問題の一因となっています。

そこで、地域社会を活性化する、いいかえると元気にすることが必要になります。本学科のホームページには、次のようにあります。

> この地域社会（＝コミュニティ）の再生・活性化をブルドーザーではなく、「人」によって進めようというのがコミュニティマネジメントのねらいです。地域住民にとって暮らしよいコミュニティをつくる、地域を元気にする人を育てる。その目的にふさわしい新しい教育システムを備えて、コミュニティマネジメント学科は開設されました。
>
> （龍谷大学公式ホームページより）

ところで、比喩的に言われている、地域や地域社会を「元気にする」ということは、どういうことでしょうか。

それは、「人が生き生きと暮らせる」、「住民にとって暮らしよい」地域なり地域社会ということになりますが、さらに具体的にいえば、活気や生気にみちた人びとや地域社会ということになります。

ですから、今求められるのは、活気や生気を阻害している課題を探求し排除し、活気や生気を高めることにあるでしょう。もちろん、人びとや地域社会がそれぞれ異なりますから、課題も異なるし、活気や生気といってもその質も量も異なるはずです。すなわち、より適切な活性化のありかたがテーマとなるはずです。

したがって、地域社会の活性化を図るためには、そのための知識と技術を学ぶとともに、地域の現実を理解することが必要になります。

２．学科の学びの特徴

本学科は、地域社会に関わる学びを次の３つの領域に分けて示しています。

①地域社会の組織や運営に関わる領域－「コミュニティデザイン系」
②住民の心身の健康に関わる領域－ 「ライフデザイン系」
③地域の社会や人びとをつなぐ情報に関わる領域－ 「ジャーナリズム系」

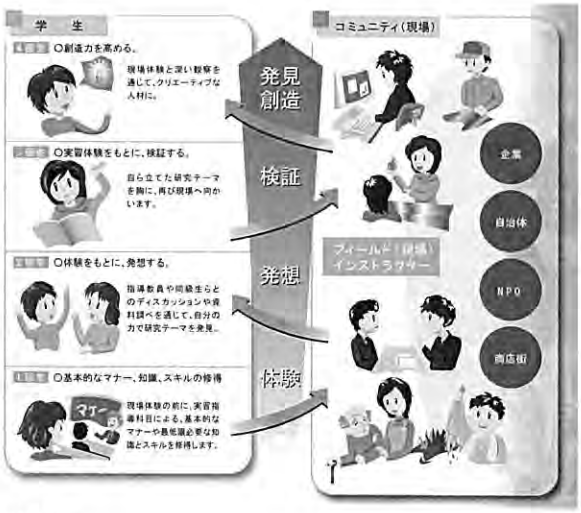
本学科では、この３つの領域を基本的な軸と考えて、カリキュラムを編成しています。
もちろん、地域社会の活性化は、この 3 領域のいずれかひとつでなりたつものではなく、すべてが連携しています。

３．実習こそ CM 学科

本学科では、実習を重要な授業形態として位置づけています。（情報処理やスポーツ技術を除く）実習は「コーオペレイティブ（co-operative＝協力的な、協同の）教育」という考え方に特徴があります。

① 大学側が実習先の指導者（本学科では「フィールド・インストラクター」とも呼んでいます）と連携して、より積極的に「学び」を支援しようという考え方です。「ともに」（co-）「有効な」(operative) という意味から、このように呼びます。

② 実習科目は１回生から始まります。



・ １回生の後期（第２セメスター）の「入門実習」（必修科目）から始まります。学内での講義や実習に関する基本的なマナーや知識・スキルを学習したのち、実際に現場に出向き様々な「体験」をします。
・ ２回生以降は自分で選択したフィールド（現場）に出向き、教員とフィールド・インストラクターの指導のもと、さらに「現場力」を養成すべく継続します。それが「コミュニティマネジメント実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（選択科目）です。２回生の「コミュニティマネジメント実習Ⅰ」では「入門実習」の経験を踏まえ、自分なりの研究テーマを発見するなど「発想」を重視します。
・ ３回生のⅡでは自分の研究テーマを現場で「検証」、４回生のⅢでは３年間の経験を踏まえ、「発見・創造」を目指します。

③ 現場での経験が最も重要ですが、実習前や実習中には指導教員と連絡をしっかり取り、安全で成果の上がる学びを目指しましょう。

4．先輩たちはこう学んだ

「ああ、もう少し勉強したかった―」

毎年１月初旬。卒業研究を提出し終えたばかりの４回生たちは、異口同音にこう語ります。わずか数ヶ月前までは「なんで卒研なんてやらなあかんねん」と愚痴っていたのに、別人のような変身ぶりです。

彼ら彼女らはこの数ヶ月間、必死で勉強をしてきました。多くの場合、直接の理由は「卒研を提出しないと卒業できない」からです。ゼミ担当の先生にお尻を叩かれて、しぶしぶ研究に着手する先輩も中にはいるのです。

ところが、論文執筆や制作作業が最終段階に近づくにつれて、「このテーマは、あの本に書いてあったあの部分と関係あるのか！」とか「この部分を説明するために、もう一つ材料を見つけよう」などというように、興味や関心がずんずんとエスカレートしていきます。皆、競うように図書館に通い、関連する書籍や論文をむさぼり読むようになります。「知への欲求」が花開く瞬間です。

しかし、最後は時間切れ。ほとんどの先輩たちが、「やり残し感」をどこかに背負いつつ卒業していきました。

「就職活動の前に卒業研究を始めておくべきだった。
少なくとも研究テーマだけでも明確にしておけば、ずいぶん違ったはず」

就職活動を始めると、いろんな場面で「あなたはどんな研究をしているか」と尋ねられます。採用する側は学生の「考え方」、つまり「どんなテーマについてどんな問題設定をし、どのように解こうとしているか」を知りたいと思っているからです。これはまさに、卒業研究によって鍛えられるものです。

ところが、この先輩は就活と卒研をアタマの中で切り離そうとしました。就活を「闘い」と捉え、勉強のために時間を割くのはムダ、と考えてしまったのです。その結果、就活は難航しました。そして、卒研提出まぎわになって、初めて「考え方」の大切さに気づいたのです。

就職活動のために卒研をやる、というのは本末転倒ですが、卒研に向き合う姿勢こそが「社会人」としての基礎を育てるのは間違いありません。

「実習での経験をもっと卒研に生かすべきだった」

CM 学科のカリキュラムには実習が随所に盛り込まれています。豊かな実習に向けて、時間的にも内容的にも最大限の配慮がなされているのが CM 学科の特徴です。

ところが少なくない先輩たちは、実習科目を「楽に単位が取れる科目」、あるいは逆に「手間暇がかかって面倒な科目」と受け止めてきたようです。

実習現場に行けば、言葉にできないくらいの膨大な体験をするはずです。にもかかわらず、その体験を財産にできないまま漫然と時間を過ごした先輩がいます。「卒業研究が佳境に差し掛かっていろんな問題意識がつながり始めたとき、かつて訪れた現場で感じたあの違和感はこういうことだったのかと初めて気づいた」と先輩は悔やみます。そして、「後輩たちにはぜひ、卒研の材料を見つけるつもりで１回生からの実習に臨んで欲しい」と話します。

薬物に手を出すな！
安易な誘いに乗っちゃダメ！！

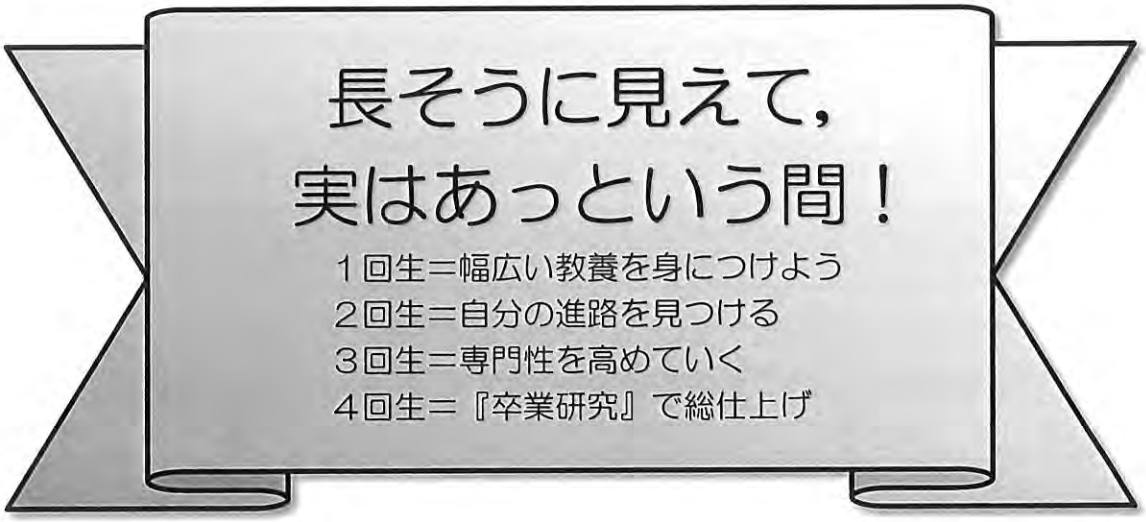
大麻や覚醒剤、違法ドラッグ――。最近、元大物プロ野球選手や有名歌手などが相次いで逮捕されるなど、日本社会の“薬物汚染”が拡大しています。

大学生の薬物事件は、関西の大学にも広がっています。大阪府内にある私立大学で学生が自主アンケートを行ったところ、薬物を入手できると答えた学生が半数、「使用したことをみたことがある」と答えた人が 1 割近くもいました。滋賀県警の薬物銃器対策室は、携帯電話やインターネットの普及で、接触せずに取引できる手軽さが薬物流行の原因の 1 つとなっていると指摘しています。薬物があなたのすぐそばまで迫っていると思った方がよいでしょう。

こうした薬物は、少しでも体内に入れると、それを断ち切るのはとても苦しいと言われています。「一度ぐらい」という気持ちがすべてを破壊します。

薬物の売人は、「普通のビタミン剤。疲れが取れるよ」「一度ぐらい大丈夫」などと甘い言葉で誘ってきます。安易な誘いに乗らず、きっぱりと断る勇気を持ちたいものです。

第２部　４年間の学生生活を組み立てる



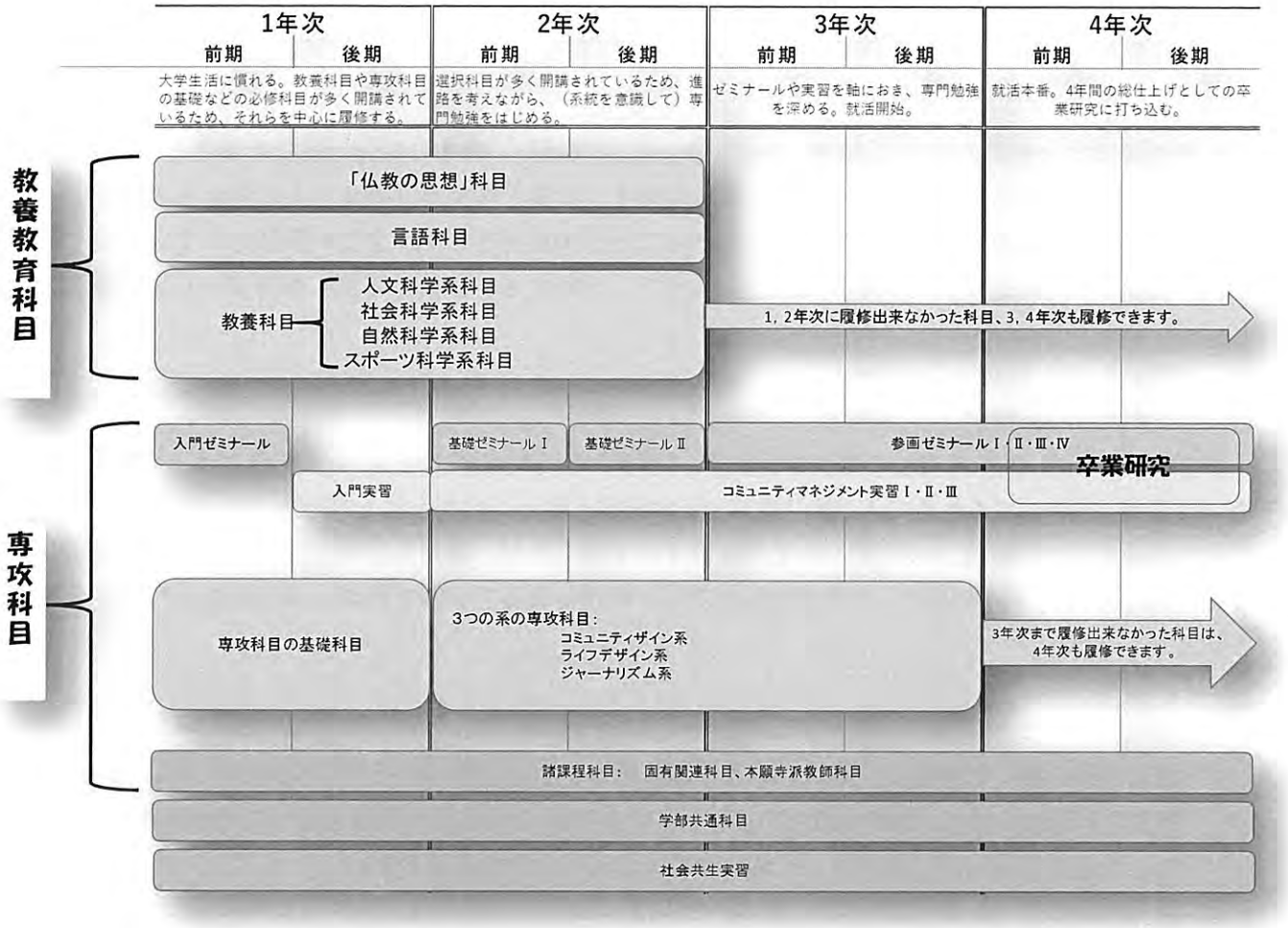
１年次では、専門性を深めるというよりも、幅広い教養と、大学での学び方を身に付けることが中心になります。前期に『入門ゼミナール』、後期に『入門実習』が必修になっていますが、これらは２年次以降のゼミと実習に向けた基礎固めであるだけでなく、４年間全体に大きな影響を及ぼす科目です。

２年次では、自分の学びの進路、方向性を見つけることが重要になります。２年次以降、通年科目の形で、夏休み、冬休みもフルに使える『コミュニティマネジメント実習』が始まります。また、「基礎ゼミナール」では、専門性を深める学びが、本格的に始まります。この１年間で、３年次以降の専門的な学びに向け、自分の進路をしっかりと定めること、加えて１年次に引き続き教養の幅を広げることになります。

３年次からは、それまでに身につけてきた幅広い教養を基礎としながら、自分の進路にそって専門性を深めていくことになります。「参画ゼミナール」では、４年次まで原則として同じ指導教員のもと、実習での学びも合わせて自分の決めたテーマに基づく研究を深め、最終的にその研究成果を「卒業研究」という形に仕上げていくことが求められます。また、この時期には就職活動などもあり、しっかりとした自己管理のもとに学んで行くことが必要です。

４年間は長そうに見えて、過ぎてみればあっという間です。今のうちから、自分なりの学びの組み立てを考えてみましょう。

CM 学科の科目体系



卒業研究を早めに意識しよう。

卒業研究、略して卒研とは大学 4 年間の学びの集大成のことで、卒業前に提出する。「大学に入ったばかりなのに、そんなもん今から考えてらんねーよ」と言われれば、「ごもっとも」と答えざるをえない。しかしそう言わずに、大学での学びとはどんなものかを考えて欲しい。

それは、進んで疑問を持つこと、なぜだとの好奇心を抱くことだ。人間以外の動物にも猜疑心や恐怖心はある。しかし、「なぜ」「どうして」「はてな」の問いを発するのは、とても人間的な行為なのだ。

すべてを「当たり前」と思って過ごしてきたなら人類は進歩せず、今でも洞穴に住んでいただろう。疑問を持ち、それにどう答えるかを考え、そのための情報を集め、それに基づいて結論を出し、そして他の人を納得させる――。これが大学での学びの基本型だ。

こうした知的訓練の集大成が卒研だということになる。どんな疑問でもよい、とにかく疑問を抱き、それにどうしたら答えられるかを考える癖をつけよう。肉体を鍛えるのと同じように、疑問や好奇心も日々の鍛錬が大切だからだ。

その成果が卒研だ、なんてちっぽけなことは言わない。疑問を持つ癖はきっと君たちの人生の宝物になる。

第３部　大学生らしい学び方入門

大学の授業は大きく分けて、①講義、②ゼミナール、③実習――の３つに分けることができるでしょう。いずれも、高校までの授業形式とは大きく異なります。教員と学生が「教える人と教わる人」という関係ではなく、教員も学生も「共に学ぶ人」であることを大前提として、全てが設計されているのです。さあ、あなたは発想を変えて大学１回生になれる？　それとも“高校４年生”のままでしょうか？？

１．講義受講の常識とマナー

まずは「講義」。大学の講義の最大の特徴は、「教員が自分で研究した成果」（場合によっては研究真っ最中の事柄）を話してくれること。国が検定した教科書を使って定められた内容を教わる高校までとは、講義の意味が根本的に違うのです。教え方は皆それぞれですが、先生方が何に興味を持ち、どう悩んでその成果にたどり着いたのか。先生方の心の内に一歩踏み込んで受講すれば、ひと味違った興奮を覚えることでしょう。

＜受講のマナー＞

① 授業の開始前には着席し、開始を待つ。遅刻をしない。授業中にぞろぞろ入室する人がいますが、講義の雰囲気を壊し、能率も低下します。また授業中にトイレや携帯電話での通信のために席を立ち、部屋を出る人がいますが、教員や他の受講生の大きな迷惑です。

② 筆記用具とノートを持参せずに、受講する人がいます。学習効果を高めるためにはしっかり話を聞き（私語などしない）、上手にノートをとることが必要です。また教室では帽子を脱ぎ、飲食はやめましょう。代返（友人の代わりに出席届けをすること）などは論外です。自分のためにはなりません。

＜ノートの取り方＞

① 大学の講義では教科書が無かったり、先生が逐一板書をしないということもありますから、上手にノートをとることは極めて重要です。ただ聴いているよりもノートを取りながら講義を受けるほうが、講義内容が頭に残り、しかも後で確認することが容易にできます。

② 先生の話の要点や板書のポイントをノートに書き留めるのが基本です。例えば、聞いている相手の話の内容を右側のページに記入し、反対の左ページには聞きながら自分の頭に浮かんだアイデアや感想・コメントなどをメモ程度に書き残す、といった使い方を工夫しましょう。左右の紙面をぎっしり使うよりも、ゆとりを持たせ、講義の最中にひらめいた自分のアイデアを後で有効利用するため、浮かんできた感想などをこまめにノートに書き留めておけば、後々すごく役に立ちます。書き留めておかなければすぐ忘れますので、こまめにアイデアなど何でも書き留める習慣をつけましょう。自分で作ったノートは自分だけの大きな財産です。３回生になって慌てて就職活動を始める人が多いようですが、授業に出、しっかりノートをとることこそが就活の基本だということも肝に銘じましょう。

２．ゼミとはどういうものか

CM 学科は、１回生から４回生までゼミは必修です。併せて、後述する実習（入門実習、コミュニティマネジメント実習）と一体運営することによって、現場で得た問題意識を学びに結び付ける──という学習効果を狙っています。

１回生は名簿順の自動振り分けです。必ずしも気の合う人ばかりと同じクラスになるわけではありません。社会人として巣立つ前に通るべき、能動的な大人になるための重要な関門と心得、ぜひとも本気で取り組んでください。

（１）ゼミの基本ルール

ゼミ活動を効果的に展開するために、ゼミ生全員が最低限共有すべき「基本ルール」があります。

1）まずは自分から“ギフト”しよう

ゼミ活動では、数人のグループを組んで調べ物や討論をする場面がたびたびあります。そういうときに、よく発言する人やマメな人に任せてしまい、ついつい“ぶら下がっている”自分はいませんか？

発言が苦手なら代表して記録を取るとか、議論しやすいようにテーブルを並べるなど、自分にできることを“ギフト”（贈り物）するように心がけましょう。そのようにして生みだす自然なチームワーク力こそが、あなたのゼミ活動充実の基盤になるはずです。

2）ホウレンソウ（報・連・相）は“学生同士＋教員”で

週１回のゼミ授業をやむを得ず欠席する場合に、「担当の先生にメールしとけば OK だろう」と思う人は大間違い。正しい答えは、「クラスのみんな、および教員」です。

報告・連絡・相談（ホウレンソウ）は“学生同士＋教員”で。しっかり心に刻み込んで下さい。

3）意見が異なっても、頭ごなしに否定しない

当たり前のことですが、これは案外難しいものです。でも、大学とは「多様な価値観」を学びに来るところ。自分と違う意見の持ち主がいることにむしろ感謝しなければなりません。カチンと来てもグッと唾を飲み込んで、まずはじっくり意見を聞いてみましょう。

4）その他

遅刻をしない、提出物の期限を守る、任された仕事は最後までやり遂げるなど──。いずれも、他のゼミ生との信頼関係を築くためのものです。教員に評価されるためのルールではない、ということを肝に銘じて下さい。

5）よくある質問（Q&A）

Q1. 人見知りする性格です。知らない人とうまくやっていけるでしょうか。

A1. 初めは知らない人ばかりですが、毎週会って色々な活動をしているうちに、顔なじみになってきます。お互いに良いところを引き出すつもりで、ゼミ活動して下さい。

Q2. 自分から意見を言うのが苦手です。黙っていてはいけませんか。

A2. 誰かが何か言った時に、「私もそう思います」「いい考えだと思います」などと言ってみましょう。黙っているよりもずっと感じがいいものです。慣れてきたら、自分の意見を言うことができるようになります。

Q3. 自分の意見を言う時に、間違っていると言われるのではないかと不安です。

A3. 間違いをしない人間はいません。思い切って言いましょう。

（2）入門ゼミナール（1回生）の到達目標

1回生の入門ゼミナールでは、主に、次の3つのことを目標にします。

① コミュニケーションの力を伸ばす。
② チームワークの力を伸ばす。
③ 大学生らしいの勉強の仕方を身に付ける。

いずれも、数値では表しにくい目標ですね。これらの目標を達成するとはどういう状態なのか、そのためにやるべきことは何か。ゼミ担当教員と学生が話し合いながら決めて、実行していってください。

具体的な活動内容としては、どんなものがあるのでしょうか。ゼミ担当教員の指導によって異なりますが、一般的には次のようなプランを組み合わせて実施しているようです。

- ✧ 「Who's Who」（ゼミ生の自己紹介を冊子にしたもの）の共同制作
- ✧ スポーツ大会の実施（企画、準備から当日の運営までの実践）
- ✧ 先輩の話を聞く会の実施（企画、準備、質問項目のまとめなど）
- ✧ 各種アンケート調査（恋愛調査、常識調査、学生食堂調査・・・）
- ✧ ゼミ生によるゼミ生のための講義（Teaching is learning. 一人で勉強するより効果的）
- ✧ ディベート（テーマを決めて調べ、賛否に分かれて競技討論する）
- ✧ 輪番制研究報告
- ✧ ゼミジャーナル（論文集）制作
- ✧ ゼミ合宿、ゼミ旅行

（3）調査・まとめ・発表の技法

ゼミナールの進め方の基本となるのは「調査」「まとめ」「発表」の3点セットです。例えばスポーツ大会を実施する場合も、大会参加の需要を調査し、企画案をまとめ、発表を通じて共有するという作業が欠かせません。ここでは、調査・まとめ・発表の技法について、ポイントをまとめておきましょう。

1）調査

まず、調査をします。調査には大きく分けて①量的調査と②質的調査があります。「量」と「質」です。量的調査とは、全体の中の何人といったように、数値化（定量化）可能な情報を収集するということ。項目選択制のアンケートなどが用いられます。

一方の質的調査は、人々の感情や価値観に関わることをインタビューや自由記述のアンケートとして収集する調査手法です。

いずれも一長一短ありますから、的確に組み合わせることが必要です。

2）まとめ

次に、調査で得られた情報（データ）を、分析し考察します。

分析の基本は「比較」。過去との比較、外国との比較、類似した事例との比較などが考えられます。

続いて「考察」。データからある仮説が浮かんだとして、その仮説を検証する作業、いわば「裏取り」です。学問的な検証は、再現性のある実験データか、過去の学術界において価値が認められた文献に拠らねばなりません。社会学部の学生の場合は、図書館で古典的な文献を漁って、裏取りをするというのが一般的な姿でしょう。

3）発表（プレゼンテーション）

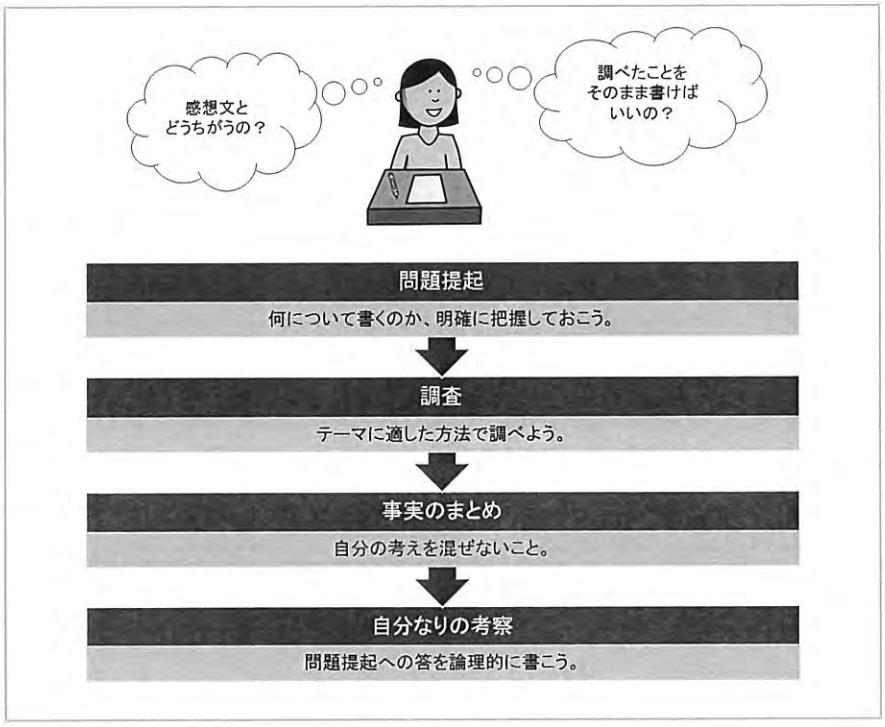
最後に、発表します。まとめた内容は、ゼミ内外で発表することになります。プレゼンテーション（プレゼン）ともいいます。

よいプレゼンの条件は、発表側が独りよがりにならず、聞き手の心にきちんと届くこと。つまり、相手が既に知っている常識の上に、調査で得られた新しい情報を積み重ねることが大切です。

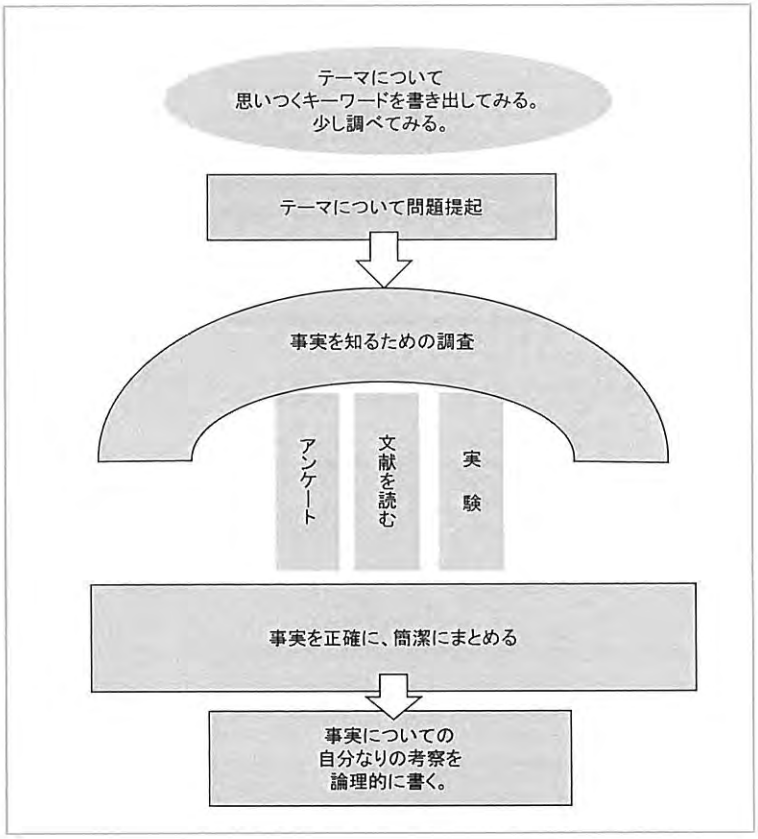
プレゼンはスライド（パワーポイントなど）やプリント（レジュメともいいます）によって行う場合が多いようです。その際、基本的な用語・概念をしっかり確認しながら進めると、聞き手をうまく巻き込みやすいと思われます。リハーサルも入念にやりましょう。

（4）レポートの書き方

1）レポートに要求されること



2）レポートを作る手順



3）引用と参考文献の扱い

（a）引用の仕方

レポートを書く際には、自分の意見を補強するための「証拠」にあたる文章を、参考文献から引用する必要があります。大きく分けると２つの方法があります。

例①：引用箇所を「　」（かぎかっこ）でくくる方式

> アリストテレスは「これらの倫理的卓越性ないしは徳は、だから、本性的に生まれてくるわけでもなく、さりとてまた本性に背いて生ずるのでもなく、かえって、われわれは本性的にこれらの卓越性を受けいれるべくできているのであり、ただ、習慣づけによってはじめて、このようなわれわれが完成されるにいたるのである」と言っている[(5)]。

例②：引用箇所を２字下げにする方式

> たとえば玄田有史は、
>
> 若年就業を考える上で大事なことは、「決めつけない」ことである。若者の選択肢は経済的豊かさのなかで多様化し、フリーターは自由な選択の産物であるかのようにみえる。しかしその一方で、やりがいを感じられる仕事に出会える一部の若者と、そうでない大多数の若者への二重構造化もひそかに進みつつある。
>
> と述べている[(12)]。

いずれの場合も、引用文には「引用注」の番号を付けます。引用部分はせいぜい数行までとし、レポート全体に占める比率も２割程度に収まるように注意しましょう。

（b）引用文献の示し方

レポートの最後には、引用注の番号順に出典を明らかにする情報を書きます。

例①と例②の出典情報は、こうなります。

> （5）アリストテレス（高田三郎訳）『ニコマコス倫理学（上）』（岩波文庫、1971）p.56.
> （12）玄田有史『仕事の中の曖昧な不安－揺れる若年の現在－』（中公文庫、2005）p.93.

（c）参考文献

レポートを書くにあたって参考にした資料や参考書の一覧表を、レポートの最後のページに付けます。書き方は、引用文献の場合の出典情報と同じです。著者名、書名、出版社、出版年を書いて下さい。

この説明を書くにあたっては、木下是雄『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫、1994）を参考にしました。引用部分や参考文献の表記方法は学術分野によってルールが異なります。指導者によって求められる方法が違うことがしばしばです。さまざまな文献を読むことを通じて、徐々に慣れていきましょう。

(d) 決してしてはいけないこと

① 資料の丸写し

どこから引用したのかを明記せず、本文内に資料の文章をそのまま書き写すと、盗作になります。絶対にしてはなりません。

② インターネット記事のコピー＆ペースト（コピーと貼り付け）

インターネット記事を使う時にも、資料を引用する時と同じルールを守って下さい。やはり人の文章の盗作です。

③ 人のレポートを写す

人のレポートを写すことは、テストで言ったらカンニングと同じです。貸した人も借りた人も、不正行為を行ったことになります。

3．実習の心得

実習先はどんなところでもよいことになっていますが、実習指導の先生とよく相談しながら決めましょう。

（1）実習の現場を見つけ、決定するには

① 龍谷大学も加わっている「大学コンソーシアム京都」が提供するインターンシップのプログラムに参加する。

② 龍谷大学が独自に提携している企業とのインターンシッププログラム（「協定型インターンシップ」）に参加する。（上の二つのプログラムについては、大学のキャリアセンターで詳しく聞くことができます）

③ 実習担当やその他の先生に相談し、実習先を紹介してもらう。とりあえずは実習担当の先生と、自分の関心・希望などよく話し合うことを勧めます。

④ 自分で探す。自分の母校の部活に指導者として参加するなどが考えられますが、これも実習担当の先生とよく相談して決めましょう。

（2）実習の心得とマナー

① 実習では怪我や事故、その他学内では起きないような出来事が起こるかもしれません。これらに備えて保険制度が用意されていますので、実習の始まる前に書類を整え、万一の場合に備えておきます。実習の開始前と後にはいくつかの書類を完成させ、提出しなければ完了にはなりません。書類を提出すれば、交通費も出ます。期限に遅れず、完全な書類の提出ができるように心がけましょう。これも実習の重要な一部です。

② 詳しくは別に配布される『実習の手引き』をよく読んでほしいのですが、実習先には決して迷惑をかけないために、担当の先生との「ホウレンソウ」（報告・連絡・相談）をしっかりやることが大切です。

③ 最後に心がけですが、単位のためだけに実施するのは、時間と経費の無駄です。受け入れてくれる実習先にも失礼になります。しっかりと準備をし、あくまでも意欲的・主体的に取り組まない限り、実りある実習とはなりません。形式的に実習時間を満たせばよいと考えず、あくまで中身のある実習をやり遂げ、有意義な体験を積んでください。

第４部　大学を徹底活用せよ

１．ラーニングコモンズ

龍谷大学ラーニングコモンズは、スチューデントコモンズ、グローバルコモンズ、ナレッジコモンズの 3 つの機能別コモンズから構成されます。学生の「多様な学びの空間」を全体のコンセプトとし、それぞれの特徴を活かした学修支援を展開します。

（１）スチューデントコモンズ

スチューデントコモンズは、学生の主体的な知的活動を可視化することによって、周辺にいる様々な学生の参加度も増していくことを目的とした学修空間です。コモンズ内はもちろん、キャンパス全体で利用できるノート PC 等の貸出も行い、データ資料作成やアウトプットに関する支援等も受けることができます。その他、主体的な「学び」を促す仕組みや機会を提供するため、学生企画のワークショップや成果発表会等のイベントを行うこともできる空間です。

（２）グローバルコモンズ

日本人学生等や様々な国の学生が集う、マルチカルチャー、マルチリンガルな活気に満ちた学びの空間です。自律型言語学習支援施設を備えているだけでなく、留学・奨学金情報に関する資料、TOEFL、TOEIC、IELTS などの各種語学試験や語学学習に関する様々な教材を備えています。また、留学経験者で構成する学生スタッフから留学アドバイスを受けることができます。

（３）ナレッジコモンズ

ナレッジコモンズは、図書館の豊富な学術情報を活用しながら自由かつアクティブに学び合える、“知の交流”空間、“学びのリエゾン”空間です。移動可能な机やホワイトボード等を設置しており、ゼミ発表の準備やプレゼンの練習、その他図書館の学術情報を使用した様々な学習ができます。

２．図書館

深草・大宮・瀬田学舎それぞれに図書館があり、蔵書数は 200 万冊以上にのぼります。また、国内外の新聞・雑誌・論文などが検索可能な各種オンラインデータベースも整備されており、学びをサポートする知の宝庫です。図書資料は全国の大学図書館からも取り寄せが可能です。

図書館サイト内の「MyLibrary」にログインすることで、自宅などの学外からも貸出や予約状況の確認、文献の複写や他大学図書館からの取り寄せ、複数のデータベースを利用した横断検索などが行えます。また、図書館で契約している多くのデータベースについても学外から利用できます。

自宅のパソコンからも利用できる図書館のサービスがあります。他のキャンパスの図書館にある本を取り寄せたり、自分が借りている本の返却期限を調べたり・・・。図書館のカウンターに行かなくても、図書館のホームページ上からできます。

３．ライティングセンター

レポート・ゼミ発表・卒業論文や英語の文書などの書き方や考え方について、相談に応じます。論理的に考える能力を養い、それにともなう表現力を高め、また読み書き能力の向上にとどまらず、分析力を高めることができます。

４．情報メディアセンター

在学生向けポータルサイト「Info Seta」を運営しているのが情報メディアセンターです。学舎内にあるPC実習室の利用について確認できるほか、語学やプログラミング、PCソフト利用などについての「eラーニング」（オンラインの自習）サービスが提供されています。

学科の壁を越え、現場に学ぶ。

「社会共生実習」

皆さんは社会学部全体で運営される社会連携型実習科目や教育プログラムを、他学科の学生とともに履修できます。本欄ではこれらの科目・プログラムについて説明しましょう。

「社会共生実習」は、社会学部の全3学科が共同で運営する実習科目です。社会学部の所属教員が現代社会に即した「プロジェクト」を毎年提供します。各プロジェクトでは、社会が実際にかかえている問題や課題を知り、解決に向けて共に活動します。

この実習科目は、学部教員がさまざまな社会現場の方々と連携してアレンジした「プロジェクト」に学生が参画するものです。学科独自のコミュニティマネジメント実習の「プロジェクト型」に類似していますが、他学科（社会学科、現代福祉学科）の教員・学生とともに学ぶことを通じて、さらに広い視野や深い実践経験を得ることが期待できます。

プロジェクトは以下の6つです（2020年度現在）。

- 地域エンパワねっと
- 雑創の森プレイスクール　プレイワーカー
- 大学は社会共生に何ができるのか　～文化財から“マネー”を創出する～
- 伏見の食材を活かした特産品づくりと地域連携
- いくつになっても、出かけられる！　～高齢者を元気にする介護ツアー企画～
- 多文化共生のコミュニティ・デザイン
  ～定住外国人にとって住みやすい日本になるには？～

自分の履修計画や進路志望とも照らし合わせながら、積極的に履修を検討してください。

５．学びのサポーター

コミュニティマネジメント学科は、実に多様なバックグラウンドを持つ先生たちによって運営されています。この多様性こそが、CM 学科の最大の特徴といえるでしょう。ゼミ所属にとらわれないで、いろんな分野の先生に質問や疑問をぶつけてみよう。先生たちの知恵を上手に活用してください。（五十音順）

■専任教員

井上 見淳（いのうえ けんじゅん）
浄土真宗の教えと歴史
3 号館 304 号室
（077-543-7633）
keninoue@soc.ryukoku.ac.jp

面倒くさがって傍観しているのではなく、自分でまずは一歩踏み出してみることが「おもしろい！」を作りだすんだと、いつも思っています。一緒にいろんなことに取り組んでみましょう。

井上 辰樹（いのうえ たつき）
健康科学（運動生理学）、社会医学（公衆衛生学）
2 号館 328 号室
077-543-7669
ttatsuki@soc.ryukoku.ac.jp

いろんなことがあっても歩み続けることで、すべての経験はプラスにできます。様々な現場に興味・関心を持ち、飛び込んでみてください。

越浦 真依（えちうら まい）
実習助手（映像教育担当）
6 号館 B1 実習指導室
077-544-7254
echiuramai@gmail.com

映像教育の実習をサポートさせていただきます。好きなものはカメラです。見る・触る・撮る・語る、いろいろな方向性で好きです。みなさんの地元の〝おすすめの撮影スポット〟をぜひ教えてください。

大西 孝之（おおにし たかゆき）
スポーツマネジメント
2 号館 339 号室
077-543-7606
ohnishi@soc.ryukoku.ac.jp

みなさんが充実した大学生活を送り、将来、地域を引っ張る主人公となるよう最大限サポートします。特にスポーツを使って地域を盛り上げようという考えに共感してもらえるみなさんとは、よく授業やその他の場で会うことになると思います。メリハリを持って大学生活をしましょう！

久保 和之（くぼ かずゆき）
スポーツマネジメント、レクリエーション、キャンプ・野外活動
2 号館 302 号室
077-543-7639
kazukubo@soc.ryukoku.ac.jp

「遊びは文化より古い」by ホイジンガ。よく学び、よく遊びましょう。私と一緒に世界を目指しませんか？ フライングディスクサークル「ROC-A-AIR」で様々なことを体験学習しましょう。

坂本 清彦（さかもと きよひこ）
農業社会学　農村社会学
2 号館 321 号室
077-543-7628
kiyohiko.sakamoto@gmail.com

いろいろへまもやらかしますが、失敗をおそれず、学生さんと一緒に学んでいきます。気軽に声をかけてください。

田村 公江（たむら きみえ）
倫理学、フェミニズム
2 号館 300-1 号室
077-543-7421
ktamura@soc.ryukoku.ac.jp

2014 年度から「体罰をみんなで考えるネットワーク」の世話人を務めています。学内では井上辰樹先生と一緒に「部活における指導について語ろう企画」という聞き取り調査をしました。

築地 達郎（つきじ たつお）
情報社会学、広報論
3 号館 312 号室
077-543-7642
tsukiji@soc.ryukoku.ac.jp

新聞記者として駆け出しの頃、「迷ったら現場、困ったら現場。もういっぺん現場！」と先輩にたたき込まれました。「訳が分からなくてもいい。浴びるように本を読め」とも。評論家より実践家でいたいと思っています。

畑仲 哲雄（はたなか てつお）
ニュースを哲学する
2 号館 325 号室
077-543-7621
hatanaka.tetsuo@gmail.com

ワンコが大好きです。一緒に写っているのは愛犬ハル（たまに研究室にいるよ）。昔は特ダネを追う元気な記者でしたが、いまは椅子に座ってばかりです。オフィスアワーにいらっしゃい。香りのいいコーヒーをご馳走しますよ。

藤田 悟（ふじた さとる）
報道論、アジア報道研究
2 号館 300-2 号室
077-543-7598
fujita@soc.ryukoku.ac.jp

30 年以上新聞社で勤務し、社会部記者や東南アジア特派員、論説委員などを務めてきました。こうした経験を生かし、学生のみなさんが広い視野を持ち、社会のさまざまな問題に関心を持つことができるようお手伝いしたいと思っています。自由に語り、伸び伸び学びましょう。

古荘 匡義（ふるそう ただよし）
哲学・宗教学・明治思想史
3 号館 311 号室
077-543-7641
tfuruso@soc.ryukoku.ac.jp

卒業後も追究していくべき問いをみなさんが大学で見つけられるよう、サポートできたらと思います。最近の私は、宗教哲学だけでなく、宗教間対話や明治の宗教思想にも研究を広げています。哲学カフェなどの対話の場づくりにも関心があります。

松浦 哲郎（まつうら てつお）
コミュニティメディア、メディア文化論
2 号館 306 号室
077-543-7666
matfitc@gmail.com

学びや遊びを通じ、異なる意見や価値観にたくさん触れてみてください。これまでの枠・常識が揺さぶられる度、皆さんの人生がまた一つ豊かになるのだと思います。

三谷 はるよ（みたに はるよ）
ボランティア行動やソーシャルサポートの計量社会学
2 号館 303 号室
077-543-7681
mitani@soc.ryukoku.ac.jp

春生まれなので「はるよ」です。海の見える街で育ちましたが、琵琶湖畔も最高です！ どうすれば人々が孤立せず、助け合うことができるのかを研究しています。
皆さんと交流できるのが楽しみです！

李 相哲（り そうてつ）
ジャーナリズム史、東アジアのメディア
2 号館 317 号室
077-543-7624
cieli@soc.ryukoku.ac.jp

月・火・水の 12 時 30～13 時 30 分、月曜日の 15 時～17 時なら、アポなしに研究室を訪ねてください。勉学に関することでしたらいつでも相談にのります。

李 复屏（り ふぴん）
地域開発、経済政策、中国経済、経済統計
2 号館 307 号室
077-543-7651
lifuping@soc.ryukoku.ac.jp

学生とは「学ぶ者」です。つまり、教わるのではなく、自ら学びとる姿勢がある人のことです。学生となった以上、学ぶ（知ること、分かること）喜びを、ぜひ知ってほしいです。

渡邉 祥（わたなべ さち）
実習助手（コーオペレイティブ教育担当）
6 号館 B1 実習指導室
077-544-7254
swatanabe@soc.ryukoku.ac.jp

実習科目のサポートをさせていただきます。ちょっとしたことでも、気になることや困ったことがあれば、気軽に実習指導室に来てください！実習や大学生活を通して学んでいく、皆さんのお手伝いができると嬉しいです。よろしくお願いします。

渡邉 悟史　（わたなべ さとし）
地域社会学・人間動物関係論
2 号館 322 号室
s.watanave@gmail.com

今このときに生まれてしまったからには、今このときがどういうものなのか知りたいと思っています。好きなものは、生き物と NFL。ほしいものは、素敵なアイデア、びっくりするようなアイデア、ぎょっとするようなアイデアです。一緒にいろいろ頭と足を使って遊びましょう。

〔凡例〕
氏名（よみがな）
専門分野
研究室番号
電話番号
電子メールアドレス
メッセージ

■非常勤で入門ゼミナール・入門実習を担当する教員

甲斐 靖之（かい やすゆき）
宗教社会学
a99234@mail.ryukoku.ac.jp

「現場」を知ろうとすれば「外側から入り込む」しかありません。しかし近年、その門扉は固く、壁は高く、壁一面のタッチパネルに「詳細は〇〇で検索！」と書いてあります……。ナンカアヤシイ。「ホントかな？」をキーワードに「現場」の様子を調べに行きましょう。

野村 洋平（のむら ようへい）
教育社会学、文化社会学
yheinomsan@gmail.com

CM 学科は授業と現場とのやりとりを通して、自分を高めていくことのできる場所です。様々な人々との出会いを通してみなさんが成長し、「学問」を深めていけるように、私自身もサポートしていきたいと考えております。どうぞよろしくお願いします。

河北 純子（かわきた じゅんこ）
ファシリテーション・チームビルディング・体力トレーニング科学
a14314@mail.ryukoku.ac.jp

「わたしたち一人一人には、力があります」。
それを聞き合い、学び合い、高め合うことで、ゴールを目指す方法を
一緒に体験しましょう。

松本 拓（まつもと たく）
社会学（ジンメル社会学）、障がい者アート
t.matumoto.soc@gmail.com

勉強も遊びも他人から言われてやっているうちは面白くない。自分から動き始めると何事も面白くなる。面白いことをしている人の周りには面白い仲間が集まる。一緒に面白いこと見つけませんか。私は最近、障がい者アートに関心を持っています。これが最高に面白いですよ！

〔凡例〕
氏名（よみがな）
専門分野
電子メールアドレス
メッセージ

第５部　学生は本を読むのが仕事

本が嫌い？読む習慣がない？？　はっきり言おう。そんなことを言っている君は、大変な損をしている。今からでも遅くない。乱読でいいから、とにかく本を手に取ろう。そして街に出よう。CM 学科の教員が推薦する名著、良書の数々を紹介する。　（書籍写真提供・ジュンク堂書店）

〔社会学の基礎を学ぶ〕----------

ランドル・コリンズ

『脱常識の社会学――社会の読み方入門』第２版

岩波書店（2013）1,240 円

社会学の中心的な考え方が、宗教や愛といった身近な事例を基に説明されています。社会学を知るてがかりとして最適な本。

作田啓一、井上俊編

『命題コレクション　社会学』

筑摩書房（2011）1,500 円

社会学者たちは何を考えてきたのか？　社会学者たちの命題（考え方のポイント）が豊富に取り上げられ、丁寧に説明されています。

竹内洋

『社会学の名著 30』

筑摩書房（2008）886 円

社会学は、一見わかりやすそうで意外に手ごわい。ただし、良質な入門書、面白い解説書に導かれれば、見慣れたものの意味が変容し、知的興奮を覚えるようになる。著者自身が面白く読んだ名著３０冊を厳選したブックガイド。

山岸俊男

『社会的ジレンマ――「環境破壊」から「いじめ」まで』

PHP 研究所（2000）713 円

社会的ジレンマの研究とは、私たちの社会を自分たちでコントロールするための科学を作り出すための研究。心理学や社会学の分野で行われてきた研究の成果を中心に紹介。

〔社会の諸相に触れる〕----------

樋口陽一

『「日本国憲法」まっとうに議論するために 改訂新版』

みすず書房（2015）1,944 円

日本を代表する憲法学者による明晰な憲法入門書。「国家」「国民」「個人」「人権」「主権」をどう考えればよいかや、法について、民主主義について語るために重要なことがらを解説する。巻末に、日本国憲法全文を収録。

井手英策

『18 歳からの格差論――日本に本当に必要なもの』

東洋経済新報社（2016）1,080 円

日本人は格差是正に消極的？ 中間層が貧困層を罵倒する分断社会を変える方法とは？ 気鋭の財政学者が、みんなが幸福になれる、自由で公正な社会の可能性について考える。

池上彰

『池上彰の新聞勉強術』

文藝春秋（2011）648 円

「ニュースを読む力」は新聞を読むことで身につく。新聞にはどんな種類があるのか、紙面構成はどうなっているのか等、基本的な読み方から、記者の本音の見抜き方、忙しい時の速読術、読み比べによる情報収集法、記事スクラップのコツまで、新聞を役立てるためのノウハウを一挙公開。この一冊で驚くほど新聞が読みやすくなる。

稲葉剛

『生活保護から考える』

岩波新書（2013）720 円

生活保護は貧困に陥った人にとって最後のセーフティネットです。どういう制度なのか、今後、どうなっていくのか学んでみませんか？

紙屋高雪（構成・解説）、門井文雄（劇画）

『理論劇画――マルクス資本論』

かもがわ出版（2009）1,365 円

カール・マルクスの『資本論』という古典の一部（１巻のみ）を劇画化したものです。資本論の用語をわかりやすく解説してあります。マルクスの伝記も含まれていて、親しみやすい内容です。

加藤剛編著

『もっと知ろう!! わたしたちの隣人――ニューカマー外国人と日本社会』

世界思想社（2010）2,300 円

君たちが大学を卒業し、実社会で活躍している 20 年後、30 年後。ひとつ確実に言えることは、今よりもはるかに多くの外国人がこの国に住み、働き、生活しているだろうということだ。そのことはどんな意味を持つのかを考える。

成田龍一

『戦後史入門』

河出文庫（2015）680 円

2015 年は戦後 70 年という大きな節目でした。改めて「戦後」について学んでみませんか？

小熊英二

『増補改訂版　日本という国』

イースト・プレス（2011）1,200 円

日本とは一体どんな国なのかを、明治維新から現在までの時間の広がりのなかで考える。難しい問題を平易に語っている珍しい本。

杉田敦

『デモクラシーの論じ方――論争の政治』

ちくま新書（2001）720 円

民主主義について学べる入門書です。対話形式になっているので読みやすい。

竹信三恵子

『女性を活用する国、しない国』

岩波ブックレット（2010）500 円

日本がほんとうに「女性が輝く国」になったら、女性も男性も幸福になれるはずです。諸外国の例が紹介されていて、わかりやすい。

〔メディア・ジャーナリズムを考える〕----------

石巻日日新聞社

『６枚の壁新聞――石巻日日新聞・東日本大震災後７日間の記録』

角川マガジンズ（2011）1,008 円

東日本大震災時、宮城県の地域紙・石巻日日新聞社は、輪転機が水没したため、手書きの壁新聞を発行。それは被災者の貴重な情報源となり、人々を励まし続けた。「伝える使命」とは何か。震災後７日間の記者たちの葛藤を追う。

河北新報社

『河北新報のいちばん長い日――震災下の地元紙』

文藝春秋（2014）810 円

東日本大震災で壊滅的な被害を蒙った河北新報。津波に呑まれて九死に一生を得た総局長、殉職した販売店主、倒壊した組版システム…。自らも被災者でありながら、報道の使命を担い闘いつづけた「新聞人」たちの凄絶な記録。

神戸新聞社

『神戸新聞の 100 日』

角川書店（1999）926 円

1995 年 1 月 17 日午前 5 時 46 分。その瞬間、本社は崩壊し、コンピューターシステムは完全に麻痺した。未曾有の大災害に、1300 人の神戸新聞社員は瓦礫の中から立ち上がり、新聞を発行し続けた。彼らは、ジャーナリストとして、企業人として、一人の人間として、いかにして危機に立ち向かったのか。阪神・淡路大震災をめぐる、地域ジャーナリズムの熱き戦いを克明に描く感動のノンフィクション。文庫化に際し、震災後から現在までの神戸と神戸新聞の 5 年間の歩みを綴った「被災地の 1826 日」を新たに収録。

森達也

『ドキュメンタリーは嘘をつく』

草思社（2005）1,836 円

「客観的な事実」という幻想を超えて、世界に肉薄する表現行為の意味と豊かさを、多様な作品群の解析を通じて考察する鮮烈な論考。０２～０３年『草思』連載の「ドキュメント・オブ・ドキュメンタリー」を下敷きにして構成。

佐藤卓己

『メディア社会――現代を読み解く視点』

岩波新書（2006）760 円

現代社会の世論はなぜこんなにぶれるのか。マスメディアからネットへのシフトは社会に何をもたらすのか。メディアと情報の本質論に立ち返って、現代社会を考察した碩学のエッセイ集です。

田原牧

『新聞記者が本音で答える「原発事故とメディアへの疑問」』

わが子からはじまる　クレヨンハウス・ブックレット（2012）500 円

「新聞」というメディアについて改めて考えさせられます。

〔まちおこしについて考える〕----------

原田宗彦

『スポーツ都市戦略――2020 年後を見すえたまちづくり』

学芸出版社（2016）2,484 円

オリンピックが終わったあとも長続きする地域づくりとは。スポーツに親しむまちづくりとスポーツによる交流拡大に必要な都市政策上の課題、その戦略的な解き方・進め方を示す。

黒須充、水上博司

『スポーツ・コモンズ――総合型地域スポーツクラブの近未来像』

創文企画（2014）1,800 円

日本のスポーツについて、歴史的、文化的、社会的に考察されています。

横石知二

『そうだ、葉っぱを売ろう！――過疎の町、どん底からの再生』

ソフトバンククリエイティブ（2007）1,500 円

徳島県の山間地にある過疎の町で"革命"が起こった。木々の葉っぱを日本料理を彩る「つまもの」として出荷するビジネスにおばあちゃんたちが乗り出したのです。まちおこし観に染みついた先入観をぶち壊してくれる一冊です。

〔経済と経営の視点をつかむ〕----------

P.F.ドラッカー

『マネジメント――基本と原則』

ダイヤモンド社（2001）2,000 円

あの「もしドラ」のベースになった本。「経営とは数字ではなく理念と創造だ」という考え方を打ち出し、世界中の多くの企業や NPO の運営に大きな影響を与えた。

中島隆信

『経済学ではこう考える』

慶應義塾大学出版会（2014）1,620 円

「伝統文化」や「宗教活動」のなかにも潜む経済合理性を、わかりやすく切れ味鋭い文章で解説。人間の幸せを実現する道具としての経済学の懐の深さを学べる入門書。

トマ・ピケティ

『21 世紀の資本』

みすず書房（2014）5,500 円

格差はなぜ生じるのか。それは不可避なことなのか――。100 年以上の長期にわたる各国の経済統計を丁寧に追跡し、資本主義が抱える本質的な課題とその解決に向けた"慎ましい鍵"を導き出した。

〔近現代史に触れる〕----------

野島博之

『謎とき日本近現代史』

講談社現代新書（1998）760 円

近現代史はなんだか難しそうな印象ですが、「謎とき」という書き方なのでスイスイ読めます。参考文献の紹介と年表が付いていて便利です。

〔こころとは何だろうか〕----------

安西祐一郎

『問題解決の心理学』

中公新書（1985）760 円

問題を発見し、解決する力を身につける重要性と、人間だけがもつ「自由に目標を作り出せる能力」について考察しています。

玄侑宗久

『お坊さんだって悩んでる』

文春新書（2006）820 円

世間の考えに囚われると悩みは絶えない。柔らかく考えてみよう。考えは一つではないのだから。

村瀬幸浩

『恋人とつくる明日（あす） ――育て合う安心と信頼のための９章』

十月舎（2006）1,500 円

恋愛について、ちょっとまじめに考えてみたい人にお勧めです。話が具体的なので、とても読みやすい本です。

〔古典――これだけは学生時代に〕----------

J.S.ミル

『自由論』

岩波文庫（1971、原著 1859）819 円

リベラリズムの原点とも言える古典です。なぜ自由が大切なのか、自由が制限されるとしたらどういう場合なのかなど、根本的なことが書いてあります。

プラトン

『ソクラテスの弁明・クリトン』

講談社学術文庫（1998、原著紀元前 4 世紀）880 円

この本は「対話編」（今で言うところのシナリオ形式）で書いてあります。最初ちょっと読みづらいと感じるかもしれませんが、内容はとても面白いので、是非チャレンジして下さい。

マックス・ヴェーバー

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』

岩波文庫（1989、原著 1920）1,000 円

20 世紀初頭に活躍した社会学泰斗の主著。「プロテスタント」（キリスト教の新教）が浸透している地域は経済力がおう盛、という周知の事実にあえて「なぜだろう」と疑問符をぶつけ、「天職倫理」という価値観と膨大な資料を手がかりに解明していく過程が圧巻。

〔渾身のルポルタージュ＆ノンフィクション〕----------

原武史

『滝山コミューン一九七四』

講談社（2010）600 円

ある郊外の団地で幼少期を過ごした少年のドキュメンタリー。教育やコミュニティについてたくさんのヒントが埋め込まれています。

辺見庸

『もの食う人びと』

角川文庫（1997）685 円

「バングラデシュの首都ダッカには、金持ちが食べ残した残飯が取引される『残飯市場』がある」。世界の食糧援助の総量の倍近くもの残飯が捨てられるという飽食の国にいらだつ筆者は、最貧国から伝わってきた情報に背中を押されるようにして世界への旅に出ます。ただし、遺書を残して。ダッカでは"残飯の残飯"を食い、旧ソ連の原発事故跡地では放射能汚染のスープを飲む筆者。そこから見えてくる世界の歪み。

安田浩一

『ネットと愛国』

講談社（2015）972 円

差別的な言葉を使って街宣活動を行う日本最大の「市民保守団体」在特会（在日特権を許さない市民の会）。現代日本が抱える新たなタブー集団の「闇」に体当たりで切り込む。

〔コミュニケーションを円滑にするため〕----------

平田オリザ

『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か』

講談社現代新書（2012）740 円

著者は日本を代表する劇作家兼演出家。演劇ワークショップの現場から作られた本です。

鴻上尚史

『孤独と不安のレッスン――よりよい人生を送るために』

大和書房（2011）700 円

「ニセモノの孤独」を知る、「根拠がない」から始めよう、つらくなったら、誰かに何かをあげる、あなたを支えるものを作る―人気演出家が綴る「ひとり」を生きるための練習帳。

吉田尚記

『なぜ、この人と話をすると楽になるのか』

太田出版（2015）1,200 円

ニッポン放送の人気アナ・吉田尚記は、些細な会話すらままならないコミュ障だった！ そんな彼が２０年かけて編みだした、相手を楽にさせる実践的な会話の技術を惜しみなく披露する。『ニコニコ生放送』の内容をもとに書籍化。

〔論文・レポートを書く〕----------

飯間浩明

『まんがでわかる　理科系の作文技術 (単行本)』

中央公論新社（2018）1,296 円

100 万部越えを果たした大ベストセラーの新書『理科系の作文技術』（1981）をマンガで分かりやすく解説。「明快・簡潔な表現」を追求し、「本当に役に立つ」と評される本書は社会科学系分野においても必読。

飯間浩明

『辞書編纂者の、日本語を使いこなす技術』

PHP 研究所（2015）842 円

あらゆる日本語を「用例採集」する日常を送っている「三省堂国語辞典」の編集委員が、漢字と仮名の使い分け、読点の付け方、辞書の活用法等、ことばを使いこなす方法を多岐にわたって提案する。

酒井聡樹

『これから論文を書く若者のために 究極の大改訂版』

共立出版（2015）2,916 円

初めて論文を書こうとしている大学院生・学部生を対象に、論文を書くためのコツを、「論文書きの歌」とサッカーを例に用いてわかりやすく解説。本文を補完する補助的情報（付録）のまとめ方を追加した究極の大改訂版。

サンキュータツオ

『ヘンな論文』

KADOKAWA（2015）1,296 円

なかなか見る機会のない研究論文。さがしてみれば仰天のタイトルがざくざく！ おっぱいの揺れ、不倫男の頭の中、古今東西の湯たんぽ、猫カフェの効果…。研究者たちの大まじめな珍論文を芸人の嗅覚でつっこみながら解説する。

山内志朗

『ぎりぎり合格への論文マニュアル』

平凡社（2001）756 円

論文に「独創的な考え」や「オリジナリティ」など必要ない。必要なのは、論文という「形式」にしたがって書くことだけ。本書は、卒論や小論文試験に最小限の努力で合格したいという、そんな「要領のいい人」のための実践指南である。

〔その他のジャンル〕----------

吉野源三郎

『漫画 君たちはどう生きるか 単行本』

マガジンハウス（2017）1,404 円

数多くの人に読み継がれてきた名著『君たちはどう生きるか。』（1937）をマンガで分かりやすく解説。本書の題ともなっている「君たちはどう生きるか」という問いかけには、「いかに生きるべきか」という倫理的な問題だけでなく、どういった社会科学的な認識のもとで生きていくかという問題提示がなされ，改めて学問することの意義について気付かされる。

M.J.アドラー他

『本を読む本』

講談社学術文庫（1997）920 円

ジャンル別に読書の技術を解説している本です。読書力を高めたい人にぴったりです。

永井一郎

『朗読のススメ』

新潮社（2009）464 円

今、朗読が人気です。子供への読み聞かせから始まり、朗読愛好会が様々な所で開かれています。しかし声だけで作品を表現するのは難しい。本書では、従来とは全く異なる方法で、その秘訣を教えます。シンプルな表現だからこそ、人間の本質を捉える想像力が大切。朗読愛好家必携の一冊としても、お薦めです。

難波功士

『大二病――「評価」から逃げる若者たち』

双葉社（2014）896 円

等身大以上に自分を見積もる「中二病」は中学を卒業しても続く。自分の力を正しく評価される機会から逃げ続け、根拠のない自信を延命させる若者たちの生態を描く。

〔CM 学科教員の最近の著書〕----------

畑仲哲雄先生

『新聞再生――コミュニティからの挑戦』

平凡社（2008）821 円

「新聞の危機」が唱えられて久しい。しかし「新聞の危機」は、実は「新聞業界の危機」に過ぎない。地方紙の挑戦と

挫折を綿密にレポートし、「新聞なるもの」の未来の姿を探る。

畑仲哲雄先生

『地域ジャーナリズム――コミュニティとメディアを結びなおす』

勁草書房（2014）5,184 円

過疎地の新聞社が NPO とともに地域再生とメディア再生に成功した事例を通じ、「地域ジャーナリズム」が主流ジャーナリズムの欠点と限界を超克する芽をもつことを実証的に論じる。NPO 論やコミュニタリアニズム哲学の議論を援用し、従来のジャーナリズム規範論が「地域」の視点を欠いていたことに反省を迫る一書。

三谷はるよ先生

『ボランティアを生みだすもの―利他の計量経済学』

有斐閣（2016）3,780 円

本書の探究する問いは「どのような人がなぜボランティアになるのか」というシンプルなものである。立て続けに大災害が起こり，いまやボランティアの活動は日本に欠かすことができない。そうしたボランティアの担い手について明らかにする計量社会学の成果。

李相哲先生

『東アジアのアイデンティティ』

凱風社（2012）2,376 円

漢字文化を共有する日中韓の文化はどこが違うのか。言語・思考方法を含め、日中韓のアイデンティティを共有する著者が、東アジア文化の基層に鋭く迫る。

李相哲先生

『金正日秘録』

産経新聞出版（2016）1,836 円

没後５年、いまなお日本と米中韓を振り回す「死せる金正日」。北朝鮮研究の第一人者が、機密文書や独自インタビューをもとに、２代目独裁者の「特異な人格」と世襲王朝の実像を描く。

李相哲先生編著

『日中韓メディアの衝突－新聞・テレビ報道とネットがつなぐ三国関係－』

ミネルヴァ書房（2017）5,400 円

日本、中国、韓国のメディアは自国の政治、そして三国関係にいかなる影響を及ぼしてきたのか。本書では、日中韓三国のジャーナリストとメディア研究者が、各国メディアが戦後どのような道を歩んだかをふまえたうえで、その国際報道が国際関係に及ぼした影響を解明する。またメディアがナショナリズムといかに関わり、産業としていかなる発展を見せたのかも解明する。

〔付録〕2019 年度コミュニティマネジメント学科卒業研究題目一覧

ラジオ体操が気分に与える影響	SNS の閲覧者と投稿者によって生じるストレスの差異
日本人大学生における韓国文化の影響に関する研究	笑いによって生まれる心理負荷の性差
ファン行動を活かした地域活性化	アイデンティティと性格の関連性
性的マイノリティに対する理解向上に関する研究	滋賀レイクスターズのポスター広告効果測定
東京ディズニーリゾートが愛され続ける理由	フィットネス利用者がインストラクターに求める事
若者の痩身志向と性格に関する研究	恋愛と就職活動における成果の関係性
大学生におけるアルバイトでのハラスメントと学業の関係	大学野球における盗塁の塁に関して
大学生の友人関係における直接的・間接的コミュニケーションと付き合い方に関する研究	大学野球のパフォーマンスとルーティーンについて
大学生の望むアルバイト環境とその理由	パフォーマンスに与えるルーティーンの影響
大学生のスポーツ系課外活動への参加動機	プロ野球における送りバント
大学生における抑うつ症状と生活習慣の関連性	メンタルがパフォーマンスに与える影響について
「わかる」をつくる勉強法	大学野球における期待とモチベーション
日本社会における子どもの貧困	チームに与える監督の存在
子どもたちをいじめから守るために	大学野球におけるイップスの現状
自動車産業の技術革新は社会をどう変えるのか	大学野球選手とケガ
ハラスメントと「男性問題」	地元住民が祭りを続ける理由
日本の少子高齢化と外国人労働者について	「きかんしゃトーマスとなかまたち」が日本で人気を得た要因
IT 業界の労働環境を改善するには	自転車の走行帯はどのように変化してきたのか
日本の男女平等を促進するには	殺処分される引退馬を救うには
子育て問題を改善する保育園とは	地方型マルシェと新規就農者の関係性について
デジタル化に伴う映像文化の変化に関する研究	大学生の SNS 利用から読み取る現代のビジュアルコミュニケーション
出会い系の現在進行形	震災時の情報提供のあり方に関する考察
同性愛者を理解するということ	絵本からみる現代の子ども観
歌声喫茶が生み出す場とは	卒業論文研究における社会調査法の選択に関する考察
キャバ嬢になる経験	ディズニー映画のプリンセスに表現される女性像の変容
年相応の服装という抑圧	若者におけるデート DV の実態
逮捕されるという経験	外来生物の描写の変化についての考察
限界集落で寄宿制フリースクールを営む意義とは	フェス友達とライブ友達の親密性の違い

マルチ商法被害者の現実	日本でボールパークから生まれる可能性
芸能人の広報活動がファンの消費行動に与える影響に関する研究	アニメの聖地巡礼が地元への帰属意識に及ぼす影響について
サッカーが地域活性化に与える影響	セクシュアル・マイノリティの家族の形からみるこれからの家族のあり方
現代社会とソーシャルメディア(SNS)の問題点	サッカーJリーグの女性ファンを増やす経営戦略
現代日本人の性質と余暇	アニメコンテンツによる聖地巡礼によって、聖地となった地域住民の帰属意識は高まるのか。
高齢化社会に発生する問題	学びの自主性がもたらす幸福への影響
スポーツによる地域復興	なぜ船井幸雄は宗教集団を形成しなかったのか
ゲーム依存	なぜ若者の間でテレビ離れが起きているのか
インターネットとお金	若者の偏見と寛容
野球の人気は落ちてきているのか	女性が活躍する企業とは
サッカーが及ぼす社会的影響	サッカーチームと地域活性化
ファストファッションはなぜ流行るのか	若者のファッションへの関心について
高齢化社会における生き方	現代社会におけるファッションの変容
スポーツによる地域復興	コンパクトシティに取り残された町
ゲーム依存	人はなぜ働くのか
インターネットとお金	大学生にとって「ひとりの時間」とは
野球の人気は落ちてきているのか	不登校支援に大切なこと
サッカーが及ぼす社会的影響	レンタルフレンドに見る「秘密のコミュニケーション」
ファストファッションはなぜ流行るのか	過疎地域における人口知能(AI)の活用実態と課題
高齢化社会における生き方	新聞勧誘の現場から見た説得的コミュニケーション
なぜ日本人は血液型占いに興味があるのか	ゲストハウスとはどのような場所なのか
日本における義務教育としての音楽	人を魅了する建物
就職活動におけるインターンシップのあるべき形	行列における同調行動の分析
コンテンツツーリズムを一過性で終わらないためには	銭湯に視るしぐさ・コミュニケーションの研究
観光列車の現状と課題	中学3年生が持つ高校受験観
ファストファッションの現状と課題	総合型フィットネスクラブの現状と今後
ミニシアターに未来はあるのか	空き家問題の現状と対策
滋賀県長浜市におけるまちづくりの取り組み	イナズマロックフェスがもたらす影響
安楽死法は必要か	スポーツツーリズムの成功要因と地域性
コミュニティカフェの持つ可能性	家庭料理の伝承についての考察
「映画にみる差別問題」	テレワークによるコミュニティ形成

「可愛い」を越えた先の魅力とは	音楽フェスにおける「非現実」とは
日本人と外国人の共生を考える	近江演劇祭が滋賀にあたえる影響とその課題
女子大学生の化粧行動	ボランティアにおける人間関係の考察
日中比較「モテる人」とは？	京丹後市の魅力発見プロジェクトにみるまちへの意識
遊び場としての公園の現状	棚田の保全活動は地域に何をもたらすのか
K-POP ファンと J-POP ファンの意識比較	聖地巡礼が創る共同性
持続可能な社会と日本人の意識	住民達の想いが創り出した交野市「山ナリエ」
指導者から見た少年野球の現状と将来	ファッション分野によるエシカル消費の意識形成
限界集落化が住民の意識にもたらす影響	一般大学生における e スポーツに対する態度構成要因と理解度の関わり
若年層の投票率と読書率の関係性	大学生の浮気と性格の関係性
大学生の美白に関する意識	SNS が及ぼすコミュニケーション能力への影響
中国人大学生の日本観光に関する意識	ファストファッションとハイブランドに対する消費者の価値観の差

My Road Map 2020

コミュニティマネジメント学科　初年次学修ガイドブック

発行日：2020 年 4 月 1 日
編集発行：龍谷大学社会学部コミュニティマネジメント学科
印刷：河北印刷株式会社